麦・大豆産地生産性向上計画
長野市（JAグリーン長野）

１．麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。

麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的な作業を可能とする産地づくりを推進していく。

そのために、令和3年に実質化された「人・農地プラン」のデータを基に、農地貸し出し情報を図示化し、小麦・大豆の団地化を効率的に進める。併せて、長野市農業公社と情報を共有しスムーズな中間管理事業による集約化を進める。よって、単収の安定や経営効率の向上を実現させると共に耕作放棄地の抑制を図る。

現在、長野市においては、水田フル活用の推進に取組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

２．麦・大豆生産の現状と課題

（1）需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域で生産している品種ハナマンテンは、全量（326トン）が加工用として、県内の製粉企業に販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。より、秋播き性が高く、実需の増産要望の大きい新品種「東山53号」（ハナチカラ）への切り替えを図っていく必要がある。
・大豆については、生産の9割を占める色大豆（緑大豆）は、地元に向けて販売されているが、近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、湿害対策をしながら安定生産を図る必要がある。

（2）生産における現状と課題

近年、作付面積は麦については面積拡大、大豆については横ばい傾向で推移しているが、単収は長期的に低下傾向となっている。
単収低下の原因として、作付頻度の増加による地力低下等が考えられ、収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の回復、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。
また、排水不良も単収低下の大きな要因となっており、改善が必要となっている。さらに、近年は、担い手への農地の集積が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こり、単収低下を引き起こしている。
そのためスマート農業の導入や団地化等の推進が課題となっている。

（3）実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	ハナマンテン	(44) 114	(37) 106	(42) 116	(313) 313	(327) 327	(281) 281	(137.7) 356.3	(121.0) 346.8	(118.0) 326.5
大麦										
作物計		(44) 114	(37) 106	(42) 116	(313) 313	(327) 327	(281) 281	(137.7) 356.3	(121.0) 346.8	(118.0) 326.5

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平和30年産	令和元年産(現状)
大豆	色・白大豆	(18) 61	(22) 66	(23) 69	(52) 52	(69) 69	(56) 56	(9.3) 31.5	(15) 45.5	(13) 38.5
作物計		(18) 61	(22) 66	(23) 69	(52) 52	(69) 69	(56) 56	(9.3) 31.5	(15.2) 45.5	(12.9) 38.5

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。
※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。
※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。
※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。
※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ハナマンテン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
大麦								
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	色大豆	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

長野県においては、「団地」は1ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としているが、当該地域においては、10a以下の圃場が多く、かつ水田と畑地が混在しているため、畑地も含めた上記要件を満たす農地について団地化していると判断し、団地化率を算出する。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。